



委員長メッセージ

～ 2023 年度 公募開始に寄せて ～

今年度も「STI for SDGs」アワードの募集を開始しました。本アワードは、科学技術イノベーション（STI）がSDGs（持続可能な開発目標）の達成に一層貢献することを目標に2019年度に創設し、今年で5回目の募集となります。毎年多数のご応募をいただいておりますが、近年は大学生、高校生の次世代を担う方々が社会課題の解決に真摯に向き合われている内容の応募が増え、非常に頼もしく感じています。特に昨年度は、高校生の皆さんが企業や団体、自治体などと強く連携しながら進める素晴らしい取り組み3件を表彰することができました。

一方で、昨年7月に国連から発表された「持続可能な開発目標（SDGs）報告2022」(*)にもあるように、昨今のCOVID-19のパンデミックやロシアのウクライナ侵攻などの影響もあり、SDGsの進捗は思わしくありません。むしろ、一部ではこれまでの努力が取り消されてしまうような事態にもなっています。SDGsそのものの認知や理解は進んできていても、残念ながら未来に向けて社会が良くなっているとは言えない状況なのです。それは、決して先に述べたパンデミックのような特別な出来事の影響だけではなく、先進国とされる地域で暮らす私たち自身の社会の仕組みにも原因がある、という指摘もあります。このような状況の中では、より大きく社会を変革していくこと、大きなシステムチェンジを実現することがとても重要になります。そして、科学技術には、そのような大きな変革を起こす力があると期待されています。

これらのことから、今年度も引き続き、科学技術の力を十分に活用し、トレードオフの解消や防止への意識、具体的なターゲットへの意識、さまざまな立場の人々との連携への意識などを持って社会を変えようとする皆様からのご応募を歓迎します。また、これまで、展開性の観点から日本国内での課題解決活動実績があることを必須としてきましたが、「誰一人取り残されない」というSDGsの理念のもと、課題解決活動の実績が海外のみの場合でも応募いただけるよう、今年度から募集の対象範囲を拡張します。

社会変革の原動力として期待される科学技術は、決して最先端のものばかりではありません。皆様の周りでも、身近な技術をうまく使った活動が数多くあるのではないのでしょうか。本アワードでは、大きな社会変革を起こすために、受賞取り組みの内容の紹介や発展のためのネットワーク形成なども引き続き進めていきます。多数のご応募をお待ちしています。

(*) 国連発行「持続可能な開発目標（SDGs）報告2022」

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/

2023年4月

「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長 蟹江 憲史
(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授)